



暑くなってきましたね。先週、園のホームページの内容を一部更新しましたが、併せて、この園長だより「みどりっこ」もホームページで読むことができるようになりましたので、お知らせします。

ホームページの「園長日記」の下の方の「お知らせ・最新情報」の右側に新たに「園長だより」のボタンが追加されていますので、クリックしてご覧ください。

○ 5月の誕生会をしました。

15日(火)の午前中、5月生まれの子どもたちの誕生会をしました。

今月は、0歳児1名、1歳児1名、2歳児1名、年少組3名、年中組2名、年長組2名の10名でした。保育園部、幼稚園部それぞれで行いましたが、どちらも楽しい内容で、子どもたちは喜んでいました。誕生園児の保護者の皆さんも参加されて、楽しい会になりました。

私からは、ダンゴムシを題材に、命の大切さについて話をさせていただきました。この話をした後、子どもたちはダンゴムシで遊んだ後は、木陰やもといた所に逃がしてくれるようになりました。私の話が子どもたちの心に届いたのかな、とうれしくなりました。



○ 親子歓迎遠足、楽しかったですね。

19日(土)の午前中、県立美術館がある県総合文化公園内の県民広場で親子歓迎遠足をしました。

前日までの日差しの強い暑さはなく、ちょっと雨も心配された曇り空の下で、多くの保護者の皆さんの参加もいただいて無事に行うことができました。全体でのゲームの後、それぞれの学年に分かれてのゲームなどで親子のふれあい、保護者間のふれあい等を行っていただきました。子どもたちは、広い公園でのびのびと遊ぶことができ、よかったと思いました。

今回は、当初予定していた幼稚園のすぐそばにある宮崎中央公園(文化の森)が確保できず、会場を変更しての実施で、保護者の皆さんには宮崎神宮西神苑や南九州大学など少し遠いところに駐車していただくなど、ご不便をおかけしました。次回はこのようなことがないように、会場の確保についてはしっかりと準備を進めていきたいと思っております。

保護者の皆さん、参加ありがとうございました。お疲れ様でした。



○ お箸の持ち方

給食時間中に、時々各部屋を見て回ることがあります。子どもたちは、楽しそうに、おいしく食べている姿を見ると、うれしくなります。年少組くらいまではご飯の時にスプーンやフォークを使って食べている子どもが多く見られますが、年中組、年長組になるとお箸を上手に持って食べる子どもが増えてきます。

小学校に入学すると、給食は基本的にお箸を使います。お箸の持ち方は鉛筆の持ち方につながります。お箸を持って、下の方の箸を取ると、残った上の方の箸は、鉛筆の持ち方と同じになります。ということ

は、お箸が上手に持てないと、例えばお箸を×のように持つと、鉛筆もうまく持てなくなります。

また、お箸を上手に持って使えないと、食べ物をうまくはさんだり、つまんだりして食べられず、食事に時間がかかってしまうかもしれません。

私は職業柄から、いろいろな人と出会い、その人がペンを持って文字を書く時、ペンの持ち方が気になります。時には、よくあの持ち方で字が書けるなあ、と感心することもあります。もしかしたら、この人はお箸をきちんと持てないのかもしれないなあ、と人ごとながら心配になることもあります。

子どもさんのお箸の持ち方はどうか、確認していただき、気になる持ち方をしている場合は、お箸を上手に持てるよう、家庭でも声がけをして励ましたり、練習をさせたりしてみてもいいでしょうか。



○ 足の健康（子どもの足） 4

○ 歩き出すまでの時期が大切（5/13 付）

人間は生まれてから1年から1年半で歩けるようになるが、それまでに土踏まずや足の骨格の形成（全身の骨の約4分の1が足に集中している）、重力に負けずに頭や胴体を支える体の力が培われていくそうです。赤ちゃんの首がすわり、寝返り、はいはい、つかまり立ちなどを通して一人で歩けるようになるきっかけは、赤ちゃんの「あれが見たい」「あれを触ってみたい」「あそこに行きたい」という内からわき上がってくる欲求だそうです。ですから、赤ちゃんが興味をもったものに向かって自由に動き回ることのできる空間と時間の確保が大切だそうです。赤ちゃんが一番興味をもっているのは、保護者の動きだそうです。いろいろな方向から声をかけて、体を動かすきっかけをつくるのがよいそうですよ。

○ 赤ちゃんとの関わり方（5/20 付）

重力に負けずに頭や胴体を支える力を身につけさせるためには、大人の関わり方が大切だそうです。例えば、赤ちゃんの向き癖や体の左右の動きの差。ベビーベッドが壁際にあると、赤ちゃんの興味は壁と反対側に向き、動きに偏りが出る可能性があります。また、保護者がいつも赤ちゃんの右側に寝ていたり、抱っこする時に赤ちゃんの頭がいつも左側にあたりすると、赤ちゃんの体の向きや姿勢も偏ります。赤ちゃんの全身の力をバランスよく育てるためには、時々寝る場所や抱き方など変えたりするとよいようです。

また、発達のステップを飛び越えた姿勢や運動をさせることも赤ちゃんにとってはよくないようです。「お座り」ができるようになるのは「はいはい」の次。両手両膝で体を支え前に進める（はいはい）ようになってから、その姿勢で斜め座りになって自分の力でお座りができるようになります。はいはいができる前にお座りさせると、背中を丸めて座ることを学習してしまうことがあるようです。授乳や離乳食などの必要な場面に限定し、大人が腰をまっすぐに支えて座らせる工夫が必要だそうです。

ところで、おむつがおしっこを吸収し、モコモコして重くなり、おなかや脚の付け根が締め付けられると赤ちゃんは寝返りやはいはいがしやすいでしょうか。赤ちゃんは生後6か月くらいまでは1日15回以上、それ以降は1日10回以上おしっこをするそうです。おむつには小まめに気を配る必要があるのでですね。

※ お知らせ

これまで、おむつを使用している子どもについては、使用済みおむつは持ち帰りをお願いしていましたが、園として検討し、今週から使用済みおむつは園で処分するようにしました。ごみ回収業者とも相談してこのようにすることに決めましたので、お知らせします。